

農業総合研究センター かわら版

第41号 平成20年6月27日 発行

山形県農業総合研究センター 研究企画部
〒990-2372 山形市みのりが丘6060-27

TEL: 023-647-3510 FAX: 023-647-3507

研究企画部では、編集に関する皆様からのご意見ご要望をお待ちしております。

県内各地の小学校から大勢の見学者が訪れています

(農業生産技術試験場庄内支場)

小学校5年生の社会科教科書の多くに庄内平野の米づくりが掲載されています。その中で、試験場庄内支場、品種「はえぬき」などが紹介されていることもあって毎年5月から7月にかけて、県内の小学5年生の児童が見学に訪れます。今年も6月20日までに8つの小学校から延べ370名の児童が視察に訪れました。スライドを用いて、どんな仕事をしているのか、品種改良の仕事内容や改良した品種についての説明をすると、児童たちは説明に熱心に耳を傾け、一生懸命にメモを取っていました。

また、児童たちは、質問をたくさん準備してきます。「米の品種によってどんな違いがあるのか」、「おいしくて安全な米を作るための工夫は」、「米作りに必要な水の量はどれくらいなのか」、「気象に対応した米づくりはどうするのか」などかなり高度な質問が出されています。小学校の見学も本番を迎えており、見学に訪れた皆さんから試験場をよく知ってもらえるよう案内当番を決め、職員が一丸となって今年も取り組んでいます。



スライドによる試験場の仕事の紹介

いよいよ果実肥大！ ～すいか栽培における省力化・安定生産技術の開発～

(農業生産技術試験場)

当試験場ではすいか栽培の省力化・安定生産化を図るため、子づるの発生を揃える育苗法や整枝法について検討しています。省力化には子づるの発生と着果位置を揃えることがポイントです。

現在は順次交配作業を行っており、着果、肥大が進んでいるところです。今後、着果位置や果実品質の調査を行い、データの解析を進める予定です。



圃場の様子と交配後、
約1週間経過した果実

研究者会を開催しました

(農業生産技術試験場)

農業生産技術試験場では、圃場試験が本格化した6月5日に、研究者会を行いました。研究員全員が参加して場内の試験圃場や施設を巡回し、各研究員が1課題ずつ説明し、質疑検討を進めました。これにより、試験場全体の研究内容と進展状況への認識を深めるとともに、相互に指摘しあって研究のレベルアップを図り

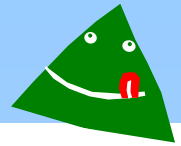


おとう新品種育成の試験圃場

ました。

やまがた新品種教室

～農業総合研究センター研究企画部



1 時間目 おうとう新品種「紅きらり」 ～紅くさわやかな初夏の味～



背景

おうとうは多くのバラ科果樹と同様、1品種では実が成らない‘自家不和合性’を持つ品種が「佐藤錦」に偏っているため、受粉環境が悪く、開花期前後の低温の影響で、収量が減少することが多かった

そのため、おうとうの安定生産のために受粉樹を必要としない、‘自家和合性’の品種開発が望まれていた

種子親
「レーニア」



「紅きらり」



花粉親
「コンパクトステラ」

<特徴>

- ・大玉で日持ち性が良い
- ・果肉が硬い

<特徴>

- ・自家和合性
(自家不和合遺伝子が変異)

<特徴>

- ・自家和合性
- ・果実の形は心臓形で、果皮は鮮やかな赤色
- ・果皮や果肉がしっかりとしている。
- ・酸味が「佐藤錦」より少なく、すっきりした甘味
- ・果汁が多い ・種離れがよい

「紅きらり」誕生まで

平成元年

交 雑

翌年、173 個の種子を播種し
実生養生後、69 本を定植

平成 7 年

初 結 実

その後、平成 8 ～ 10 年にかけて
自家和合性検定を行う

自家和合性
を確認



外観・食味が良好
で注目される



平成 12 年～

「山形 C10 号」

系統適応性検定試験として
6 道県、9 か所で特性等を検討

平成 18 年

品種登録出願

「紅きらり」と命名、12 月 18 日付け
で品種登録出願公表

平成 20 年

品種登録

(登録番号：第 16618 号)

紹介記事：

農耕と園芸 2008 年 3 月号 P 64～66

グリーンレポート No.467 2008 年 5 月号 P 2～4

